

ケル時ハ、猶以能モノナリ、只シメリテ加ヘルモノトシレ、○中
一麥ヲバ福者ノ子ニマカセ、大豆ヲバ鳩ノ餌ニセヨト云ヘリ、麥ノウスキハ取實スクナシ、貧シ
キ者ノ子ハ、種ヲオシミ厚クマカズ、福者ノ子ハトモシキコトヲシラザルニヨリテ、オシゲナク
種ヲアツクマクトナリ、

〔農家心得草〕麥を蒔畦拵の事。

諸國にて麥を作るを視るに、畦に豎まきあり、横蒔あり、是を横畦豎畦といふ、大和國邊にては、横
がんぎ豎がんぎといへり、其外國所にて方言あり、大坂在にて畑に麥を蒔に、貳挺掛といへる犁
を用ふ、○中 扱蒔べき畑を打ならし、畦を引べき其左右の端に印を付、繩を引、畦切と云小鋤にて
其繩の筋を引、印を付、其印を真中にとり、此二挺懸を跡ささりして引ば、二筋一度に溝をなせば、
其二筋の溝へ壹人立て、麥種子を蒔下すなり、其跡より壹人蒔たる麥に足にて土をけかけ、其上
をふみ付置なり、如此してまけば、常蒔ごとくして蒔より壹反蒔べき所に、三四反も蒔事なり、扱
此二筋に蒔とは、一筋に蒔べきを二筋に蒔事なり、此二筋の間七寸、或は七寸五分位の間になれ
ば、麥成長しぬれば、二筋一所になりて、厚く蒔たる畦のごとく見ゆれども、七寸餘あひ明て蒔た
るなれば、草とり肥しするにも都合よく、又厚けれども程よく成長するなり、

〔甲陽隨筆二〕郡内領之事

谷村々西方を上郷と云、此村之内、麥作を田の如く水を掛ケ作る、冬水と云は、冬の内麥作へ水を
掛ケ、春水と云は、春の内に掛る、麥の出來方大によし、

〔齊民要術二〕大小麥

大小麥、皆須五月六月曠地、不曠地而種者、其收倍薄、崔種大小麥、先略逐犁種者佳、再倍、省種子
擲之亦得、然不 其山田及剛強之地、則糶下之、其種子宜加、五、省於下田、凡糶種者、匪直土淺、易生、然於鋒鋤亦便、
如三作、秬耐旱